

目次

まえがき

第1章 序論(張・今野・中村)	1
1.1 生活諸相(張)	1
1.2 市民生活からみた縦割り行政システムの弊害(中村)	4
1.3 社会基盤の整備と市民生活との関係(今野)	6
1.4 市民生活行動学とは(張)	10
1.5 市民生活行動学を創成する必要性と意義(張)	11
1.6 本書の構成(張)	15

Part 1 関連し合う生活行動

第2章 居住からみた生活行動(張)	19
2.1 居住の本質	19
2.2 居住に関わる社会的・政策的課題	21
2.3 居住行動を理解するために	23
2.4 人口グループ別居住行動の研究	27
2.5 居住自己選択問題とほかの生活行動との関係	30
2.6 ライフコースにおける居住・交通行動の移り変わりの調査分析	34
2.7 居住からみた市民生活行動学の研究課題	39
第3章 交通からみた生活行動(山本・加藤・張)	43
3.1 交通行動分析の歴史と新たな社会的課題への対応(山本)	43
3.2 交通行動分析の対象(張)	45
3.3 交通時間価値(加藤)	47
3.4 活動に基づくアプローチ(張・山本)	51
3.5 移動中の幸福度(張・山本)	53
3.6 交通行動分析と人口統計学的研究(張)	55
3.7 交通行動からみた市民生活行動学の研究課題(山本・張・加藤)	57
第4章 買物からみた生活行動(張・青木)	60
4.1 買物の意味(青木)	60
4.2 買物に関わる社会的・政策的課題(張・青木)	63
4.3 空間的買物行動(張)	66

4.4	時間利用からみた買物行動(張)	72
4.5	時間利用と消費支出からみた買物行動の事例分析(張)	76
4.6	買物からみた市民生活行動学の研究課題(張)	79
第5章	世帯エネルギー消費行動(張・余・松橋)	83
5.1	世帯エネルギー消費に関する社会的・政策的課題(松橋)	83
5.2	世帯エネルギー消費行動とリバウンド効果(張・余)	86
5.3	事例研究1:自宅内外におけるエネルギー消費行動(張・余)	89
5.4	事例研究2:時間利用とエネルギー消費行動(張・余)	92
5.5	事例研究3:居住地選択とエネルギー消費行動(張・余)	95
5.6	ライフスタイルとエネルギー消費行動(張)	99
5.7	エネルギー消費からみた市民生活行動学の研究課題(張)	101
第6章	健康維持増進のための生活行動(小林・張)	103
6.1	健康維持増進に向けた社会的・政策的な取り組みの歴史(小林)	103
6.2	健康関連 QOL とは(小林)	107
6.3	生活習慣と健康関連 QOL(小林)	109
6.4	交通行動・住環境と健康関連 QOL(張・小林)	115
6.5	健康行動の実践と健康関連 QOL(小林)	116
6.6	健康維持増進のための市民生活行動学の研究課題(張・小林)	118
第7章	観光から見た生活行動(張・呉)	121
7.1	観光振興に関する現状と課題	121
7.2	観光と QOL	123
7.3	ヘルスツーリズム	125
7.4	都市観光	128
7.5	観光行動の意思決定	129
7.6	統合型観光行動モデルの開発	141
7.7	観光行動からみた市民生活行動学の研究課題	144
第8章	時間利用からみた生活行動(平田・張)	146
8.1	時間利用の研究分野(平田)	146
8.2	時間利用からみた QOL(平田)	147
8.3	時間利用研究の歴史及び分析的な枠組み(平田)	149
8.4	時間利用モデリング(張)	155
8.5	時間利用からみた市民生活行動学の研究課題(張)	161

第9章 生活行動と統計(平田・張)	165
9.1 人口・世帯	165
9.2 雇用	167
9.3 家計収支	168
9.4 居住	169
9.5 健康	170
9.6 余暇・観光	171
9.7 交通	172
9.8 生活行動全般	173
9.9 QOL	175
9.10 市民生活行動調査の課題	176

Part 2 社会環境の変化と生活行動

第10章 自動車依存型生活行動(桑野)	179
10.1 モータリゼーションの進展	179
10.2 モータリゼーションとライフスタイルの変化	180
10.3 安全と環境への取り組み	182
10.4 自動車保有・利用の意思決定	184
10.5 新しい自動車の保有・利用形態の浸透	188
10.6 地方都市における自動車と市民生活	190
10.7 自動車保有・利用行動とソーシャルネットワーク	191
10.8 自動車依存型ライフスタイルからみた市民生活行動学の研究課題	193
第11章 情報通信技術と生活行動(大森)	197
11.1 情報通信技術の進展による生活行動の変化(大森)	197
11.2 情報通信技術と交通の相互作用(大森)	199
11.3 バーチャルアクティビティ(大森)	200
11.4 移動中の“ながら”行動(大森)	203
11.5 情報通信技術とソーシャルネットワーク(大森)	204
11.6 人にやさしい交通情報(大森)	205
11.7 情報通信技術からみた交通行動研究の課題(大森)	206
11.8 情報通信技術の影響を反映した市民生活行動学の研究課題(張)	208
第12章 女性の社会進出と子育てに関わる生活行動(大森)	214
12.1 女性の社会進出と子育てに関する社会的・政策的課題(大森)	214

12.2 我が国の女性の社会進出と子育ての特徴(大森)	216
12.3 女性と子育て世帯の居住環境と外出環境(大森)	217
12.4 交通分野における女性と子育ての関連研究(大森)	218
12.5 女性と子育て世帯の生活行動と交通行動(大森)	219
12.6 子どもの送迎行動(大森)	222
12.7 子育てや子ども連れ外出に対する意識や理解(大森)	223
12.8 女性の社会進出と子育てに関する実践研究の課題(大森)	224
12.9 女性の社会進出と子育てからみた市民生活行動学の研究課題(張)	227
第13章 高齢者のモビリティと生活行動(カ石・藤原・塚井・張)	231
13.1 高齢社会におけるモビリティ向上策の意味	231
13.2 モビリティ施策の規範的側面に関する論点	233
13.3 モビリティ施策の評価フレーム	237
13.4 高齢者のモビリティ施策に関する研究事例	240
13.5 郊外ニュータウンにおけるパーソナルモビリティ導入の実証分析	244
13.6 高齢者のモビリティからみた市民生活行動学の研究課題	248

Part 3 市民生活行動変容

第14章 行動変容理論と市民生活行動(張・小林・金子・小松)	251
14.1 日本における行動変容研究の略史(張)	251
14.2 計画的行動理論(張)	253
14.3 対人行動理論(張)	254
14.4 ナッジ(Nudge)に基づく行動変容アプローチ(張)	255
14.5 習慣の変容(張)	257
14.6 健康維持増進のための行動変容(小林)	258
14.7 持続可能な消費と環境情報(金子・小松)	261
14.8 市民生活行動学からみた行動変容研究の課題(張)	266
第15章 モビリティ・マネジメントと市民生活行動変容(谷口・神田・宮川)	267
15.1 モビリティ・マネジメント概説:社会的背景と定義	267
15.2 国内外の動向	269
15.3 モビリティ・マネジメントにおける生活行動分析	276
15.4 モビリティ・マネジメント技術の拡がり	281
15.5 モビリティ・マネジメントと市民生活行動学	283

Part 4 市民生活行動学の未来

第 16 章 市民生活行動調査の提案と実証分析(張)	285
16.1 はじめに	285
16.2 QOL の概念	286
16.3 市民生活行動調査の提案・実施	288
16.4 市民生活行動調査に基づく実証分析	290
16.5 調査のパッケージ化に向けた分析	298
16.6 市民生活行動調査の公共的受容性	301
16.7 今後の研究課題	305
第 17 章 市民生活行動学という学問の未来(張)	308
17.1 はじめに	308
17.2 理論的な研究の挑戦	309
17.3 サービス提供の視点からみた市民生活行動学研究の展望	314
17.4 市民生活行動調査の活用	315
17.5 市民生活ビッグデータの利活用	319
17.6 市民生活行動シミュレータを開発する必要性	321
17.7 市民生活行動学研究がどこへ向かうべきか	323
参考文献	325
あとがき	373